

# FMU にじいろ通信

第12号 2025年3月発行

春の陽気を感じる頃となりましたこの数日、感染症の流行も落ち着きを見せているような印象を受けます。また、花粉症を発症されている方は、外出時の服装やマスクの着用など花粉症対策に努めていきたいところです。

## FMUキャリアサポート交流会を開催しました

1/15 (水) 災害医学・医療産業棟7階 会議室2において、『未来の“私”を考えよう』をテーマに、病態制御薬理医学講座助教 鈴木 学 先生からは「病院薬剤師から教員へ～これまでの歩みと今後の目標～」と題し、新しい出会いや経験は自分自身を成長させてくれた。人との出会いを大切にしながら、自分のやりたいことに挑戦を続けることで、目標に近づくことができた、とご自身の実体験をもとに、人との繋がり的重要性についてご講演いただきました。

ふくしま子ども・女性医療支援センター特任教授 小川 真里子 先生からは、「キャリアを考えるうえで知っておきたいプレコンセプションケア」と題し、女性の健康問題について、正しい知識を持つことにより予防や対処が可能になり、そこから生涯の健康を見据えることで、働く女性のためのプレコンセプションケアにつながる、とご講演をいただきました。

「夢や目標を持ち続けることが、いかに大切かを改めて感じた」や「女性の健康課題など、知っているようで自分自身理解していないことに気が付いた」などのご感想をいただきました。



参加者：30名 (Zoom：20名、会場：10名)

## 看護学部カフェ開催しました

1/30 (木) 8号館5階ラウンジにおいて『令和6年度 FMU看護学部カフェ』を開催しました。茶話会形式でコーヒーや茶菓を片手に、子育て・介護と仕事の両立について参加者が日々感じている「ワークライフバランス」の理想と現実について忌憚のない会話が繰り広げられました。

カフェ終了後のアンケートでは、「普段聞けない仕事以外の話が聞けて楽しかった」、「大変さを共有でき、労ってもらえる時間になりました」などご意見・ご感想をいただきました。



会場参加者：11名

## オンライン座談会カフェ開催しました

1/24 (金) 『令和6年度FMU女性研究者のキャリア形成を考えるオンライン座談会カフェ』を開催しました。

「ワークライフバランス」を図るうえで家事に費やす時間を減らす必要に迫られた時、どのようなサービスがあって、利用してみてもうだったかなどの情報交換や、自分の時間をどのように作っているのか、など参加者同士で活発に意見の交換が行われました。

家事代行サービス・育児サポートに関する情報には、参加者も強く興味を引かれたようでした。

Zoom参加者：3名



## FMU成果報告会を 開催しました

令和7年3月7日（金）『令和6年度FMU成果報告会』を開催しました。

ダイバーシティ推進室の取組の一つとして、ライフイベント（出産・育児・介護・看護等）により、研究が困難な教員に対して講座等研究員5名及び学生アルバイト5名配置しております。

今年度は上期と下期合わせてのべ41名の教員の方に研究支援を行いました。どのような支援を受け、どのような成果を挙げられたのかお話しいただきました。



参加者：14名

### 講演者

#### 【医療人育成・支援センター】

助教 中村 光輝 先生

#### 【会津医療センター 精神医学講座】

助手 羽金 裕也 先生

#### 【病理病態診断学講座】

助教 山田 匠希 先生

#### 【循環器内科学講座】

助手 西浦 司人 先生

#### 【整形外科学講座】

助手 新田 夢鷹 先生

#### 【保健科学部 臨床検査学科】

助教 平田 理絵 先生



## FMUカフェ in 会津医療センター 開催しました

令和7年3月7日（金）「令和6年度FMUカフェ in 会津医療センター」が開催され、公認心理師・臨床心理士である楢木（ねりき）雄史先生にご講演して頂きました。

公認心理師となったきっかけやその業務の幅広さ、魅力についてユーモアを交えながらお話して頂きました。

参加者からは現在行っている研究や公認心理師のキャリアとしての可能性、日本と欧米との心理士の差についての質問があり、活発なディスカッションが行われました。



会場参加者11名

## 図書のご案内

推進室蔵書の中でも、特におすすめの本をご紹介します。貸し出しも行ってまいりますので、ご興味のある方は推進室までお問い合わせください。

### 多様な社会はなぜ難しいか： 日本の「ダイバーシティ進化論」 著：水無田気流

ダイバーシティが日本に根付かない理由は他者に完璧を求めすぎているから？本当のマイノリティは顕在化しない？日本特有の問題にスポットを当てた一冊。



### 無意識のバイアス 人はなぜ人種差別をするのか 著：ジェニファー・エバーハート

悪意なく差別をしてしまう『無意識のバイアス』というメカニズムで偏見が生まれてしまうのか、脳に刻まれたステレオタイプの思い込みがいかん生活に影響を与えるかをスタンフォード大学心理学部教授である著者が解説。



ダイバーシティ推進室図書リストは右のQRコードから確認できます



### ◆用語解説◆

#### 『仕事と生活の調和とは（定義）』



「憲章」では、仕事と生活の調和が実現した社会は、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされ、具体的には

- ①就労による経済的自立が可能な社会
- ②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会
- ③多様な働き方・生き方が選択できる社会と、されています。

出典：内閣府 男女共同参画局

仕事と生活の調和推進室HPより一部抜粋



福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別・立場に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、かつ、仕事と生活の調和を実現することを目指しております。

## 福島県立医科大学 ダイバーシティ推進室

E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657 (内線 : 2807)

HP : <https://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

ダイバーシティ推進室長 前島 裕子